

基礎経済科学研究所 自由大学院

大阪第三学科(金融流通協同組合論ゼミ)からのたより

[第845回ゼミ報告] 2022年11月4日号

大阪市の大病院がサイバー攻撃で電子カルテ使えず、診療停止に。我が県の生協にもサイバー攻撃でネット注文が停止。当面は「カミの復活」で対応！

10月26日のゼミは、マルクス『資本論』3巻7編48章「三位一体的定式」を小野さんの報告で行いました。最初に、新版での文節変更を説明し、資本主義的生産過程は独自の歴史的一時的な生産関係であるが、必然性の国から自由の国へ、根本条件は労働日の短縮。資本主義では、資本—利潤（企業者+利子）・土地—地代・労働—労賃と三位一体形態、そして資本—利子・土地—地代・労働—労賃とされ、利潤は隠されて、前者が源泉、後者が貨幣として表現される。経済的三位一体では資本主義生産様式の神秘化、社会諸関係の物化、素材と歴史的・社会的規定性ととの一体化が完成される。また不破による3つの条件：生産手段の社会化・社会主義的計画経済・個人の全面発達、日本共産党綱領での社会主義・共産主義への段階論から、それを統一的に捉え、その展望への現状認識の変化と未来社会の認識を紹介した。

討論では、エンゲルス版編集に対して、不破説とリュベール説によりこの章の文節変更があるが、大きな違いはなく、恐慌論問題の指摘のほうが大きい。山田喜志夫はこの章を国民所得論として論じ、生産・分配・支出、生産物から賃金・商品・所得を論じ、それは消費財・非生産物のサービス労働・ブルジョアへの論点となる。特に3巻では利子生み資本の篇でこれを信用制度論と利子生み資本論とに分ける説と一体とする説があり、これは通貨流通・手形流通・手形割引・信用創造・銀行信用をどう捉えるかである。ここで未来社化論を協同組合・アソシエーションとして論じるが、全面発達と専門性の関係はどうか。物象化は資本主義特有のものだが、未来社会で自由人の大連合でも社会的分業で商品交換はなくなるのではないのでは。

会場出席は小野さん・高島さん・川口さん・松村さん・高田、オンライン参加は斎藤さん・竹内さん・後藤さん・英国から松本朗さんの9名でした。

* 11月9日(第2週)ゼミも、午後5時半(or 45分)から8時です。

・オンライン情報 Zoom: ID: 824 9753 9988 パスコード: 921012

* 芦田本は12月で終わる予定、次のテキストの推薦本を募集・提案を。

***** ゼミ日程 *****

11月9日(水)午後5時半～8時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋

芦田文夫『資本に対抗する民主主義』Ⅲ部 1・2章 報告 高田

11月23日(水)午後5時半～8時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋

マルクス『資本論』3巻7編49章 生産過程の分析によせて 報告 松村さん

12月14日(水)午後5時半～8時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋

芦田文夫『資本に対抗する民主主義』Ⅲ部 3・4章 報告 高島さん

その後 12/28: アイクルの部屋、2023/1/12, 1/26, 2/9, 2/23, 3/9, 3/23

◇第三学科事務局/高田好章: ytakada@kcn.ne.jp 090-8658-3755

HomePage: <http://ysweb.g.dgdg.jp/ytakada/kisoken/> Pass: kiso